



TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター ニュースレター

Vol. 22 Spring, 2014



1. Hello from All Corners of the World!

今号の最初は、韓国のダングック大学に留学中の全 将秀君です。ダングック大学とは、2012年9月に学生交換協定を締結し、全君が本学から送り出した最初の交換留学生です。同じ交換留学の仲間たちから人望の厚い全君ですが、韓国ではかなり苦労したようです。“Trouble is welcome.”の精神がどう活かされたのでしょうか。

チョン ジャン ス
全 将秀 (経営学部3年次生)

韓 国に来て半年以上が経ちました。この半年でたくさんの思い出をつくり、様々な体験をし、留学を通して私の意識や物事に対する姿勢は大きく変わりました。

留学する前の私は、大学生活をただ何となく過ごしていました。なんの刺激もなく、勉強もバイトも正直適当にしていた1年目。サークル活動などもせず、授業が終わればすぐに家に帰るような毎日だった2年目。3年次生になる前に、経営学科からホスピタリティ経営学科に転学科。新しいゼミや留学準備などでそれなりに時間を追いかける日々を過ごしました。しかし、私はずっと不安でした。将来について考えた時、何のビジョンも目標もないということ。このまま適当に大学に通って、何となくみんなと同じ時期に就職活動をして、この先大丈夫だろうか。大した資格もないし、何をしたら良いのかわからないし、実際自分が興味のある事、やりたい事が一体何なのかが全く思い浮かばなかったのです。



ペルー人のルームメイトと (本人左)

そうこうしているうちに、2013年9月、韓国での留学生活が始まりました。最初の頃は、思っていたより韓国語が難しく、生活する上で必要最低限の意思疎通ができない場面も度々あり、少し苦労しました。そして、韓国での最初の1ヶ月は一緒に食事をする友達もいなくて、とても寂しかったです。毎日一人でおにぎりやカップラーメンを食べていました。しかし、2ヶ月、3ヶ月と生活するうちに、自分から積極的に、親しみを持って人に接していくスキルがいつの間にか身に付いていました。今では6、70人ほどの語学堂(韓国語プログラム)の学生のほとんどが私のことを知っています。そして、みんなが私のことをおしゃべり好きで、活発で、明るい人物と言います。知らない学生まで、名前を呼んで挨拶してくれます。日本にいた時は、そんなに活発なわけでもなかったのですが、こちらに来て本当の自分が出ているような気がしてい



(上) 語学堂の友人たちと (本人左端)



(下) 留学生サッカーチーム (本人前列右)

ます。海外生活という経験が、こうも自分を変えてくれるとは思ひもよらせませんでした。今では毎日がとても楽しく感じられるようになりました。

また、韓国語もかなり上達していると実感していて、韓国人との意思疎通も楽々できるようになりました。大学の友達や教授、学校周辺で仕事をされている方々とたくさん話をすることによって、韓国語も徐々に上達し、色々な人の話を聞くことによって、私は将来に対する事だけでなく、様々な事を、長期的な視野で考えられるようになったと思います。

今、心身共に成長しているのを感じることができ、留学して本当に良かったと心から思っています。今では留学前に持っていた将来への不安もなく、帰国後の計画も立てています。外国の人たちと生活する環境は素晴らしいと思います。自分に自信もつきます。残り2ヶ月、韓国での生活を存分に楽しみ、最後まで勉強にも一所懸命取り組みます。

目次:

Hello from All Corners of the World! 1-2

受入れ留学生2013-2014: 日本語発表会レポート 2-3

ホームビジットプログラム 3-4

International Fair 2014: Be Global at OGU! 4



次は、昨年2月まで本学の国際センターでインターンをしていた谷本 理沙さんです。谷本さんは、関西学院大学の卒業生ですが、高い語学力と留学経験を活かして、約1年間に亘って、国際センターで様々な面から留学生や在学生のサポートをしてくださいました。その間に、在外公館派遣員制度に応募し、見事に超難関を突破して、現在はミクロネシア地域の島々からなるパラオ共和国の日本国大使館で派遣員として働いています。彼女から、前向きに何にでも挑戦することがどれほど大切かを学ぶことができるのではないのでしょうか。

谷本 理沙 (元国際センターインターン)



パラオの同僚たちと(本人2列目右端)

私は、大学に入学する前から、入学後は必ず留学をしようと決まっていた。そして、2年の秋から1年間、交換留学でアメリカテキサス州の南メソジスト大学へ留学しました。留学先の大学には、日本人がほとんどいませんでしたが、色々な国の学生と友達になり、本当に充実した生活を送ることができました。勉強が大変で、朝まで図書館に残り、くじけそうになったことも何度かありましたが、今となってはそれも良い思い出です。また、留学したことにより、積極的になり、日本に帰国後は、大学内外の様々な海外研修や国際イベントに参加するようになりました。留学をしたことによって、満足できる大学生活を送ることができたので、留学をして本当に良かったと思っています。

大学4年生になり、卒業後の進路について迷っていたところ、大阪学院大学国際センターでインターンシップをするというチャンスがありました。インターンシップでは、OGUに来てい

る留学生や留学に興味のあるOGU生のサポート、ゼミナール授業の補助等をしました。OGUには世界各国からの留学生がいて、様々な留学プログラムがあり、またI-Chat Loungeなど国際交流のできる場がたくさんあるので、どんどんこれらを活用してもらいたいと思います。

インターンシップを通して、社会人の基本的な知識を学ぶと同時に、プレゼンテーションをする機会も多くあったので、自分に自信が持てるようになりました。そして、海外で国際交流や教育に関する仕事をし、自分自身に挑戦したいという思いが強まりました。インターンシップは、自分が何をしたいのか、何に興味があるのかなどを見つけることのできる良い機会なので、皆さんもぜひ就職する前に経験したら良いと思います。

現在は、太平洋諸国にあるパラオの日本国大使館で勤務しています。パラオは最近日本のテレビで紹介されているので、知っている方も多いかもしれませんが、青い海とダイビングで有名な国です。綺麗な自然とのんびりとした雰囲気には癒されますが、人口2万人足らずの国での生活は不便なことも多く、度々ホームシックになります。私の職種は派遣員で、日本からの出張者対応(空港送迎、ホテル予約、配車手配)や通訳、広報・文化(日本紹介イベントの開催、日本への国費留学生の募集・選考、ホームページの更新)等を担当しています。現地ならではの習慣や英

語でのコミュニケーションなどの難しさに苦労することもあります。大学やインターンシップで学んだことを活かすことができ、嬉しく思っています。

大使館の仕事は、OGUでインターンシップをしている時に偶然知り、応募したのがきっかけでした。私は、人生は全て挑戦と経験の積み重ねだと思っています。学生時代に留学したことで、OGUの国際センターでインターンシップをすることができ、国際センターでインターンシップをしたからこそ、現在の仕事に就くことができました。現在の仕事を終えたら、大学院に進学しようと考えています。他にもやりたい事がたくさんあるので、今後も挑戦し続けようと思います。

大学生の皆さんにお伝えしたいことは、時間がある大学生のうちに、様々なことに挑戦し、苦勞をして、成長してください。そして、充実した、悔いのない学生生活を送ってください。



(上) パラオの海でダイビング(本人左)
(下) 世界遺産のジェリーフィッシュレイク

2. 受入れ留学生2013-2014

現在、国際交流プログラムで学ぶ留学生は39名。5月初旬で10ヶ月のプログラムも終わりを迎えます。日本語学習の集大成とも言える「日本語発表会」に引き続き、International Fair 2014でも全員がポスタープレゼンテーションを行いました。日本語のレベルに関わらず、全員がすべて日本語で発表を行う姿には本当に感動します。今回は、その中から北京大学法学院の常 欣さんの発表を紹介します。

シン チャン

常 欣 (北京大学法学院)～日本のアイドル文化

アイドルは世界共通の文化現象で、芸能界の一部のアーティストの呼び方だ。俳優や歌手などと違って、アイドルたちは芝居や歌などを専門にするのではなく、見た目の方がファンの目をもっと惹きつけている。

他の国と比べると、日本のアイドルには4つの特徴がある。

まずは人気。日本の国内でも海外でも日本のアイドルは有名なようだ。留学生25人のアンケート調査結果によると、アイドルが好きな人と嫌いな人の数は半分半分ののだが、好きと答えた人のほぼ全員が日本のアイドルを知っている。オリコンの2013年年間アーティスト総売上データと年間CDの売上データは、アイドルの人気の証拠となる。

次は可愛さ。女の子も男の子も基本可愛いイメージ



ポスタープレゼンテーションの様子



だ。デビュー当時はみんな若いから、可愛いのは当然だが、年齢が上がれば、ずっとそのままであるはずがない。だが、日本では、アイドルだったら、いつも可愛いイメージを保持しているのが普通だ。なぜなら、一般人の印象ではアイドルは可愛いものだからだ。



5組の福井先生とクラスメートたち(本人2列目左端)

そして人数が多い事。ソロよりグループの方が多。なぜなら、プロデューサーたちのバック戦略は、人数が多くなると、個性が豊かになって、もっと多くの人を引きつけられるというものだそう。そして、もしあるメンバーが好きなら、グループ全体が好きになるかもしれないからだ。

最後は長さ。意味は二つある。一つ目は、日本のアイドル文化は、最近ではなく、1970年代から始まったということだ。1970年から1985年まで、ピンクレディーやおニャン子クラブなどのアイドルグループが次々に出てきた。しかし、アイドルにうんざりする人も増えたため、1995年まで、「アイドル氷河期」と言われた。状況が上向いたのは1995年、前のイメージと違ってカッコイイ4人組SPEEDがデビューした頃だ。

二つ目の意味は、アイドルの芸歴が長いということだ。松田聖子は1979年のデビューから35年間、様々なステージで活躍していて、今でも一番年上のアイドルとして、テレビによく出ている。ジャニーズの男子アイドルも30代、40代になっても、色々な仕事をしている。

アイドルがこの様に受け入れられる原因は様々だ。まずは、若い人はみんなキラキラになりたいという夢があることだ。アイドルはこの人達の憧れのモデルのような存在だ。そして、アイドルの世界は、みんなが息苦しい現実から逃げ出す「天国」だ。何も考えずに、単純にエンジョイすれば良い。「アイドルは砂漠の中のオアシスだ」と嵐の櫻井さんが言った。厳しい現実の中でも、みんなに夢があるなら、アイドルはこのままずっと生き続けると思う。

(本人執筆)

3. ホームビジットプログラム

ホームビジットプログラムとは、アパートで暮らす留学生たちが、週末などを利用して日本の家庭生活を体験するプログラムです。2013-2014国際交流プログラムに参加した留学生の多くは、アパートで生活をしているため、学内外のファミリーに協力していただいてホームビジットプログラムを実施しました。ホストファミリーとして長期間留学生を預かることは難しくても、気軽に参加できる国際交流プログラムです。今回は、ホームビジットファミリーと留学生の手記を紹介します。

ホームビジットファミリー～岡山 泰子さん

約 半年前、ホームビジットプログラムのホストファミリーを引き受けることを決めた直後に送られてきた留学生のプロフィールは、フィンランド人の女子学生、ミア・コルクネンさんでした。今まで色々な国の方と接してきましたが、フィンランドの人と直接話した記憶はありませんでした。何となく北欧の人のイメージで、色白、金髪、長身かなと思っていたのですが、初対面のミアは、透き通るような白い肌、流れるような金髪のロングヘア。。。までは合っていたのですが、日本人としても背が低い方の私と同じくらいの小柄で華奢な女子で新鮮な驚きでした。

それから月に1、2度、京都を案内がてら色々なところに出かけました。とても親しいお嬢様という感じで、家に上がるときはきちんと靴を揃え、大学での勉強も頑張っている様子でした。何度か友人を交えて食事をしたのですが、毎回同じ質問を繰り返されても(ノキア、ムーミン、白夜のことなど)、嫌な顔もせず、その度に真面目に答えてくれるという優しい性格の持ち主です。

話をしてもあまり感情を押し出すことのない控えめな印象でしたが、主人が携帯の翻訳アプリを駆使してフィンランド語で挨拶をする時は、ニコッと可愛い笑顔を見せてくれます。男の子3人というむさ苦しい生活に慣れていた主

人も、初めて娘が欲しいという夢がかなって嬉しかったのではないのでしょうか。

同じく韓国人のホームビジットファミリーをしている友人家族と催した合同のホームパーティーもとても楽しかったので、友達と一緒にホストファミリーに名乗りを上げるというのもよいアイディアかもしれませんね。

折も折、冬季オリンピック開催の年でしたので、テレビ観戦をしても、日本人選手の他についてフィンランドの選手も気になって応援していたので、知らず知らずのうちにフィンランドが身近な存在になっていたようです。

この小さな異文化交流を通じて、私の生活の中にまた一つ新しい興味や関心の種が蒔かれ、芽生え始めたようです。



自宅で(左から本人、息子さん、Mia)



岡山ファミリーとMiaの大阪ツアー
(下) 左からご主人の岡山治郎さん、Mia、本人

このプログラムに参加したことで、日本文化への理解を深めることができ、そして何より素晴らしい家族に出会うことができました。岡山ファミリーと出会って、日本の日常生活を経験することができ、アパートで独り暮らしをしている私にとってはとても貴重な機会でした。一緒に京都や大阪の色々な場所に行き、とても楽しい時間を過ごしました。本当にありがとうございました。まるで日本にお父さんとお母さんが出来たような気持ちです。またお会いするのを楽しみにしています。



フィンランドのハーゲンシア応用科学大学からの留学生Mia Kolkkinenさん



ソン スピン 宋 秀嬪 (スンチョンヒャン大学)

日 本に来てホームシックにかかって辛かった時に、日本語の先生がホームビジットというプログラムについて説明してくれました。このプログラムは、日本の家族もできるし、日本語と日本の文化を勉強する機会もできるし、良いところがたくさんあると思ったので、参加してみようと思いました。

私のホームビジットの家族は、韓国に行ったこともあるし、ママは韓国のアイドルにすごく興味を持っている人でした。そのため、会ってすぐに、ファミリーと韓国の食べ物やアイドルについて話をすることができました。また、私のファミリーは、神戸に住んでいるので、私は神戸の色々なところに行くことができました。例えば、ハーバーランドや中華街に行き、楽しい時間を過ごしました。これまで、1ヶ月に一回か二回ぐらい会って、有名なところに行き、一緒にご飯を食べました。私たちはみんな

食べるのがとても好きで、会った時にはいつも食べ物たくさん食べた記憶があります。ファミリーの家に行っても美味しいお菓子が一杯あって、私はいつもすぐ食べてしまいます。

このプログラムで、本当に良い家族と出会えて、たくさんの経験をしました。忘れられない思い出を作ってくれて、ありがとうございますとファミリーに言いたいです。

(本人執筆)



神戸の中華街で (本人中央)



田村ファミリーと (本人左から2人目)

月に一度、家族に娘が1人増えたみたいで、皆でよく食べ、よく笑い、楽しい時間を過ごすことができました。韓国でも頑張ってくださいね！



スピンのホストファミリー 田村 匡さん

4. International Fair 2014: Be Global at OGU!

4 月23日・24日の2日間に亘り、International Fair 2014を開催しました。今年は、「Be Global at OGU!」をテーマに、国際センターに関連するすべてを紹介する大規模なフェアとなりました。午前中は、国際交流プログラムとCETプログラムで学ぶ留学生の日本語によるポスタープレゼン

テーション、午後は、国際センターがOGU生に提供する様々なプログラム紹介、I-Chat Loungeに加えて、外部の旅行会社STA Travelと語学学校のEFとSELCの方々にもご参加いただきました。

留学生が日本語で日本についてのプレゼンテーションをする様子に、OGU生からは「日

本人とは違う視点から日本を見ているのが興味深かった」、「日本語が上手くて驚いた」などのコメントが寄せられました。これまで日本語発表会や発表交流会として個別に開催してきたものを、今回はInternational Fairに組み込み、より多くのOGU生に聞いてもらうことができました。2時間以上も日本語でしゃべり続けた留学生たちにとっては、とても大変だったと思いますが、良い日本語の練習の場になったのではないのでしょうか。

午後のプログラム紹介では、それぞれのプログラムを経験したOGU生にも協力をしてもらい、交換留学、海外研修、CETルームシェア、Team SOSなどについてのポスタープレゼンテーションを行いました。参加したOGU生からは、様々な質問が出ていたので、これを機会に、さらに多くのOGU生が勇気を持って一歩踏み出し、留学、研修、キャンパスでできる国際交流プログラムに参加してほしいと思います。



私のおススメ in New York ~Takako Kanazawa

ニューヨークと言えば、ブロードウェイのミュージカル。華やかな歌、踊り、演技に加え、近年では趣向を凝らした豪華なステージが観客を魅了し、そこはまるで夢の世界です。今回はそんなブロードウェイミュージカルのもう一つの楽しみ方をご紹介します。実は、劇場の横にはスタッフや俳優たちが出入りする「Stage door」と呼ばれる小さな通用口があります。終演後、さっきまで華やかな衣装を身にまとっていた俳優たちがラフな私服に着替え、Stage doorから出て来て、待ち構えているファンに気さくにサインや握手をしてくれるのです。“Today's performance was fantastic!!!”なんて、舞台の感想を伝えられたら、憧れのスターが一気に身近に感じられるはず。 (国際センタースタッフ)



大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434 (代表)

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>